03

今金・美利河の金山遺跡（今金町）

―後志利別川上流域の砂金採掘跡

美利河ダム付近にある砂金採掘跡。
江戸時代前期の遺跡が地表面に露出している。

写真は美利河ダム付近の林内にある砂金採掘跡の一つで、人頭大ほどの石が石垣のように積み上げられている。ここは断面がU字形の水路のような地形になっており、その両側にこのような石垣が連なっている。この水路の行方は、後志利別川に向かっている。付近には石が乱雑に積み上げられたマウンド状の高まりや、クレーター状に掘り込まれた直径10mほどのくぼみもある。

ほとんどは笹や枯れ葉などに覆われ、その姿を潜めているが、少し取り払うとこのような石垣が顔を出す。ここに足を踏み入れた人なら誰でも、これが自然にできたものではないことに気付くだろう。専門家であればなおさらだ。江戸幕府が招聘したアメリカ人鉱山学士のW・P・ブレークは、文久2年（1862年）にこの地を調査し、これらを目の当たりにした時の様子を次の通り書き記している。

「昔、ここで金を選鉱した頃に築いたに違いない石垣を発見した。その石垣の上には、すでに少なくとも樹齢150年と思われる巨木が生長している。（中略）砂金を掘ったくぼみには、カエデやカバの木などが生い茂り、その多くは直径60cm以上ある。大きな石を積んで山をなしたものもある。これらは当時、大人数が群集し、人力で行ったもので、坑夫が生業としていたものに違いない。しかし、これを誰が、いつの時代になしたものかは、日本人でさえも知らないのである。」（ブレーク1871年／筆者現代語訳）

彼が訪れた正確な場所は不明だが、この報告は現代の私たちが見ているものと同じ特徴をとらえて

出典：NPO法人北海道遺産協議会2023年発行『北海道遺産20年の歩み』より

おり、また遺跡の年代に関しても重要な示唆を与えている。当時、遺跡の上に推定樹齢１５０年以上の巨木が覆っていたということは、つまりその構築年代は１７００年代初頭よりも古いということだ。さて、これまでにこの地域で行われた専門的な調査によると、このような遺跡は後志利別川沿いの段丘面上におよそ10kmにわたって点在していることがわかっている。この例のように川の水面よりずっと高く、水気のない台地上に立地するのが大きな特徴だ。

わが国の伝統的な砂金採掘技術は水を利用した比重選鉱法であり、砂金を取るには大量の水が必要となる。遠く上流から川水を分け、細長い水路を設けて水を引き込んだものだろう。この現場に関しては、その西方に斜面に沿うように細長い水路状の溝が見つかっており、当時の導水路と考えられている。

以上の一連の痕跡から、この現場ではおおむね次のような作業内容が推定されている（北海道埋蔵文化財センター編１９８９年）。

①あらかじめ決めた採掘区域に導水路から引き込んだ水を流し込み、区域内を水浸しにする。
②区域内を掘り下げ、不要な石を取り除く。人が運べる程度の石は作業の邪魔にならないよう、側面に積み上げ石垣状に並べる。
③区域内に溜まった土砂を掘り上げ、専用の選鉱用具で砂金を採取する。
④作業後はそのまま放置し、別の区域で改めて①から作業を繰り返し、次から次へと現場を移していく。

このように乾いた台地上で、大人数をかけて大々的に採掘する方法は、近世の佐渡地方で行われた「大流し」の特徴を表しており、これはわが国の砂金採取技術の中では最も基本的で伝統的なものと言われている（矢野１９８８）。

本現場に残された遺跡の特徴から類推して、これらの砂金採取を行ったのは、江戸時代寛永年間から寛文年間（１６３０～１６６０年代）の松前藩である可能性が指摘されている。ブレーク報告とも

大きく屈曲する後志利別川（今金町花石から美利河方面を望む）。
川沿いには砂金採掘跡がいまだ数多く眠っている（白い実線の部分）

整合的であり、間違いないだろう。それにしても、この流域の砂金はその後どこへ行ったのだろうか。これについては文献史料が残されておらず、わかっていない。今後の研究課題である。

昭和から平成にかけて行われたダムの建設工事により、周辺の砂金採掘跡はその多くが失われたが、工事が及ばないところは、幕末にブレーク博士が見た時とほぼ変わらない状態で良好に残されている。その一つがこの遺跡だ。

今金町では、本遺跡を将来にわたって保存・活用するため、２０２２年１月に今金町指定文化財に指定した。また、今後の見学利用に役立てるため、解説案内板整備や安全に見学できるような園路の整備も計画している。地元の案内ガイドの養成も重要な取組となる。

このたび、今金・美利河の金山遺跡が北海道遺産に選定されたことは、これからの教育的活用はもとより、観光活用にも大きな弾みとなる出来事であり、誠に喜ばしい。

（今金町教育委員会　学芸員　宮本雅通）

［引用参考文献］
W・P・ブレーク１８７１年「博士ブレーキ報文摘要」『新撰北海道史』第６巻史料２所収
北海道埋蔵文化財センター編１９８９年『今金町美利河１・２砂金採掘跡』
矢野牧夫１９８８年『黄金郷への旅』道新選書７　北海道新聞社

砂金掘り体験のようす。
今金町教育委員会では児童生徒向けに砂金掘り体験の機会を提供している。
少量だが今でも砂金を採ることができる。

昭和時代の砂金掘り用具。
昭和30年代まで使用されていた砂金掘りの用具を美利河地区の施設で保管・展示している。